

## USAAJアンケート報告

2020年10月にUSAAJ (Sussex University Alumni Association in Japan: 日本サセックス大学同窓会) のメーリングリスト宛に現状の同窓会に関するアンケートを実施しました。77名の方から回答をいただくことができました。ご協力頂き、大変感謝致します。アンケート調査の結果は以下の表と図に示した通りです。

皆様からのご意見を参考に、さらに同窓会を活性化できるように運営していきたいと考えております。

### I. サセックス大学との関わり

大学院*	61	79%
学部	15	20%
教員	1	1%

\*学部と院両方進学したものも含む

### II. 年齢層

10代	1	1%
20代 (20-24歳)	21 (7)	27% (9%)
(25-29歳)	(14)	(18%)
30代	17	22%
40代	8	11%
50代	20	26%
60代	10	13%

### III. サセックス大学での専攻

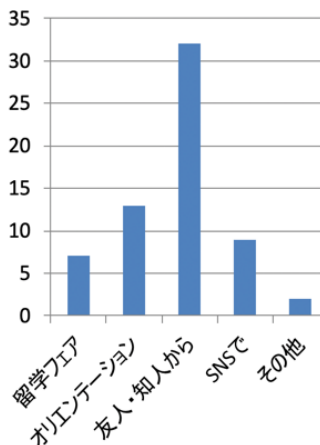
開発系	40	52%
社会系	8	10%
国際系	7	9%
文学・言語	5	7%
ビジネス系	3	4%
その他文系	2	3%
芸術	4	5%
その他理系	4	5%
その他・不明	4	5%

(回答: 77)

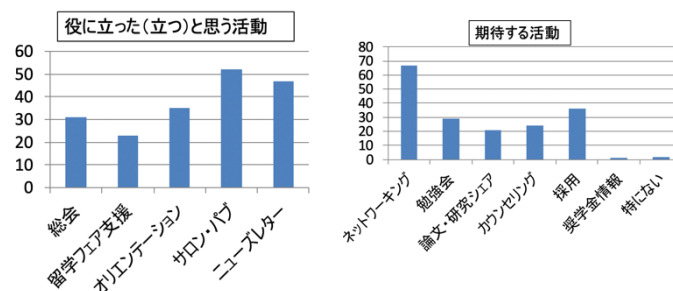
### IV. USAAJについて

知っていて、加入している	60%
知らなかった、または加入している自覚がない	25%
知っているが加入していなかった	15%

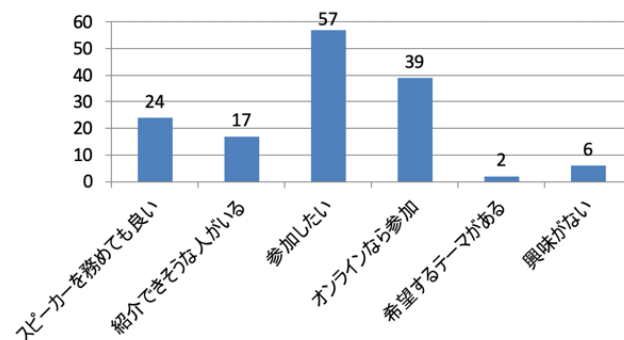
### V. USAAJ を知った経緯



### VI. 関心のある活動



### VII. サセックス・サロンに関して



アンケートの結果より、同窓会から発信するコンテンツは、院卒レベルで半数を占める開発系を中心にしたつ学問のカテゴリーの枠を越えたものをお届けしていきたいと考えております。年齢層がベテラン層と若手と大きく分かれているため、年齢層を繋ぐような活動も企画していきたいと考えております。

また、サロンやパブ・ニュースレターといった参加者間の関わりや情報共有の場をより活発に提供していきたいと考えております。

# Alumni Now!

## 三輪 敦子

### MA2 in Gender and Development 修了

日本赤十字社外事部（現国際部）、国連女性開発基金（現 UN Women）アジア太平洋地域バンコク事務所、世界人権問題研究センター等において、ジェンダー、開発、人道支援、人権分野の様々なプログラムの実施支援や調査・研究に携わってきた。2019年、G20大阪にともない開催されたCivil 20（市民社会）では共同議長をつとめた。現在は、ヒューライツ大阪 所長、SDGs 市民社会ネットワーク共同代表理事、関西 NGO 協議会 代表理事、「SDGs 推進円卓会議」構成員等をつとめる。

私が初めてサセックス大学の名前を知ったのは、朝日新聞の記者であった松井やよりさんの記事でした。英国のサセックス大学には開発研究所（Institute of Development Studies: IDS）という研究所があることを知り、そこには「ジェンダーと開発」を研究するKate Youngという教授がいることを知り、「ここだ！」と確信することになりました。情報を集めていたところ、MA in Gender and Developmentというコースが新しくできたことを知り、再び「ここしかない！」と確信することになったのです。もしかしたら（そして多分！）、私は日本で初めて「ジェンダーと開発」の分野で修士号を取った人間ではないかと思っています。

憧れの英国生活でしたが、当時の英国は、サッチャー政権の末期の時代で、様々な「改革」が社会に大きな影響を及ぼしていた時期でした。街には「To let」の看板があふれ、疲弊感が漂っていました。秋の新学期が始まった頃に大問題になったのが人頭税（poll tax）の導入で、大学の教員は「試験の採点拒否」という形のストライキをおこなっていました。サセックス修了後、10年ほど経って大学を訪れる機会があったのですが、ポロポロだったコモンスームのソファがきれいな花柄プリントに変わっていて、びっくりしました。「社会は変わるんだ」ということを実感として教えてくれたのもサセックスでした。

IDSで学んだ後、国連女性開発基金（ユニフェム、現 UN Women）のアジア太平洋地域バンコク事務所プログラム担当官として勤務し、その後は国際協力コンサルタント、人権関係の研究所の研究員、NGOスタッフ等として仕事をしてきましたが、その時々で、サセックスで学んだことの有り難みをつくづく感じてきました。

まず挙げられるのは、開発分野の様々な領域の議論について知識を身につけることができたことです。IDSの

修士課程はコースワークなので、関心があった領域のことだけを学ぶわけではなく、それが負担と感じられたこともありましたが、様々な分野の最先端の議論に接したことは、その後、開発分野で仕事をする際に大いに役立ちました。

次に挙げたいのは、世界の様々な課題に、文字通り、目を開かれたことです。IDSには南アフリカのアパルトヘイト撤廃やパレスチナ解放運動に関わって拘束・投獄され、その後、政治的亡命者としてサセックスで学んでいたクラスメイトがいました。拘束された際の拷問の影響に苦しんでいる友人もいました。南ア出身のクラスメイトに誘われ、ソウェト蜂起を記念する行動に参加したのは、いい思い出です。また、当時のソ連における抑留から解放されてサセックス大学を訪れたサハロフ博士の講演を聴いたり、中南米出身の友人に誘われて、当時、中南米における希望の星だったニカラグアのサンディニスタ政権のオルテガ大統領の講演を聴くためにロンドンまで行ったこともありました。そこには「第三の男」の原作者であるグレアム・グリーンがサプライズとして登場し、大いに会場を沸かせました。チリの軍事独裁政権を率いたピノチェトが選挙で敗北した際に大喜びする中南米からの留学生の輪に入れてもらったことも忘れられません。友人を通じて、Chinua Achebe等のアフリカの作家に感心を持つようになったのもサセックスのおかげです。

MA2 in Gender and Developmentのクラスメイトとのつながりは今でも続いていて、フランスやネパールで同窓会が開かれています。今回は、私も是非、参加したいと思っています。

最近、気に入っている言葉にtrajectoryがあります。私のこれまでのtrajectoryの重要な結び目の一つとしてサセックスがあります。私のtrajectoryと皆さんのtrajectoryが、どこかで出会い、サセックスで学んだ「あるべき世界の探求」に向けてご一緒できる機会があるなら大変嬉しいのです。

## 同窓会幹事募集のお知らせ

サセックス大学同窓会（日本）では、現在、同窓会活動をリードしていく担当幹事を募集しています。担当していただきたい活動は以下のような内容です。ご相談に応じますので、可能な範囲でのご協力をお願いします。

総務、会計、ニューズレター、サセックス・サロン、パブ、大学フェア支援等

ご協力可能な方は総務担当の野田までご連絡ください。[yusukenoda0803@gmail.com](mailto:yusukenoda0803@gmail.com)

## キャンパス便り

関 普鮮 (みん ぼそん)

MA in Poverty and Development 2020年入学

2020年度-2021年度IDSのMA Poverty and Developmentを専攻しております関と申します。現在渡英して二ヶ月が過ぎようとしております。この寄稿を通して、サセックス大学同窓生の皆様と新しくつながることができれば嬉しいです！

### 留学の背景

以前から国際協力に携わりたいという思いがありました。大学入学当時、飢餓に苦しむ発展途上のアフリカのイメージを持っていた私は、ビルが立ち並び、スーツを着たキャリアウーマンが通勤する一見日本と変わらないケニアの都市部の写真を見て衝撃を受けました。アフリカをもっと知りたいという思いで、アフリカ研究会に所属し、同地域の歴史から文化まで幅広い分野について勉強しました。卒業後は民間企業を経て、独立行政法人の中東アフリカ地域調査アシスタントとして勤務しました。中東アフリカ地域に投資・進出する日本企業への情報提供や、国際機関や現地政府との共同イベント開催など、ビジネスを通しアフリカ地域との繋がりを強固に感じ貴重な経験をさせていただきました。一方で同地域での紛争や飢餓のニュースを見ると、貧困から抜け出せない脆弱な人たちにリーチできないもどかしさを感じており、貧困と開発について深く掘り下げて学んでみたいと現在のコースへの留学を決断しました。

### IDSでの学び

今年度は、コロナウィルスの影響で例年とはかなり異なる留學生活を送っております。現時点でIDSのすべての授業はZoomを通して行われ、IDSが主催するイベントやセミナーなどもすべてオンラインです。ロックダウンが重なった時期には、レストランやパブに行けない、人数制限があるなど、コースメイトやIDSの学生らとの交流にも制限がありました。しかしながら、このような状況でも留学を決断し、みんなで試行錯誤しながら過ごすこの1年は特にかげがえのないものであると感じております。

秋学期(9月~12月)は、主に貧困と不平等の測定の仕方や定義について、また経済学の視点から開発を考える授業をとりました。授業はインプット型のレクチャー型授業と、ディベート形式の授業の2つがセットで行われます。正直なところ、語学力に加え、開発学の基礎的な知識や経験も不足している中、世界各国から豊富な経験を持つ学生らや発展途上国出身の学生ら、ネイティブの学生らと対等に議論すること、たくさんの課題文献を読み、開発学の内容を英語で理解することには大変苦

勞しており、毎日がチャレンジングな日々です。

一方で、勉強のストレスや悩みを聞いてくれるたくさんのフラットメイトやコースメイト、途上国での経験や自国での経験をシェアしてくれる友人らと語り合えること、いつ行っても癒される素敵な街並みと綺麗な海があるブライトンの環境、観光名所や日本とは180度異なる文化でのイギリス生活は本当に恵まれていると感じ感謝しています。日々限られた時間の中でタスクをやりくりし、勉強や友人との交流、今後のキャリアについても考える毎日は大変濃いもので、間違いなく私の人生の中で貴重なものとなると思います。

現在IDSで勉強をしていく中で、アフリカの難民キャンプでの支援のあり方について興味を持つようになりました。残りの数ヶ月で興味分野をさらに深め、将来は現地での経験も積みたいと考えております。サセックス大学やIDSには、幅広い分野で活躍されている先輩方がたくさんいらっしゃるの、皆様の後を追いついて国際協力に貢献できる人になりたいです。



フラットメイトらとのバースデーパーティ



コースメイトやCourse Convenorらとのクリスマスパーティ

## キャンパス便り

広木遥斗

MSc Climate Change, Development and Policy  
2020年入学

サセックス大学の皆さま、はじめまして。広木遥斗と申します。皆さまと新しく繋がる機会になると思い、寄稿させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### バックグラウンド

立教大学を卒業後、そのままサセックス大学修士課程に進学。学部時代にインドネシアの環境シンクタンクでインターンを経験。現在、気候変動のコースにてファイナンスと緩和策について研究。

### Covid-19と学生生活

私の年度はCovid-19が直撃した年となりました。授業の50%がオンラインで運営、ロックダウン期間はレストランが休業など、去年度までとは異なる大学院生活を過ごしております。授業方針に関して心配な方もいらっしゃると思いますが（私は渡英するか迷っていました）、コース毎に方針は異なるので、ご自身が進まれるコースの状況に関して、現在所属している先輩に伺うのが得策かと思えます。

授業に関しては特に困難だとは感じていません。理由として、対面授業も実施されており、クラスメイトと関係構築できたことが大きいと感じています。直接会い、雑談を交わし、真面目な議論をしたからこそ、オンラインでの会話もストレスを感じることなく実施できています。渡英していないクラスメイトも数名いますが、個人的には、現地に身を置いてクラスメイトと交流できる利点を強調したいです。

### 学び

現在までの学びについて、学問、学問以外の二点から綴ります。まず学問における学びに関して、非常に満足しています。自分のキャパシティを少しストレッチした位置に課題が設定されている印象です。学部の内容にも触れつつ、且つ難解なIPCCレポートも読み解く必要があり、心地よいストレスを感じながら学んでいます。また、毎週グループプレゼンが課される授業がチャレンジングです。膨大なリーディングを協力して調べ、成果物を作る過程で、自分がチームで価値を発揮するためのノウハウが磨かれているなど感じます。

学問以外の交流に関しても、恵まれた環境に居ます。パーティーに参加したり、ボルダリングに行ったりとアクティブな学生が多く、言語・異文化理解の側面において成長する機会になっています。また、サセックスの院生はインクルーシブだなと節々で感じます。開発学が強

いという大学柄か、皆優しく全員を巻き込んで物事を進めていく印象があり、そのことも恵まれた環境に居ると感じる一因です。

### キャリア形成の中での大学院の位置づけ

私はサセックスへの進学理由として「気候変動と開発に関して、一通りの体系的な知識を得られること」と「キャリアを考える最適な場であること」の二点を挙げます。膨大な気候変動と開発という分野を包括して理解し、自分が人生をかけて解決したい領域を特定できると考えています。例えば、気候変動のモデルの信頼性を問う科学よりの授業から、実際の適応策のケーススタディまで、扱うトピックは多岐にわたります。このようなカリキュラムを通じて、専門性と周辺分野の理解を同時に深め、今後の実務活動において基盤となる知識を醸成したいです。

また、学部時代、漠然としかキャリアパスを描けなかった私ですが、サセックスは腰を据えてキャリアを熟考する場として、魅力的な場所だと感じます。気候変動と開発というニッチな分野に集った教授とクラスメイトの存在は、私の財産です。彼/彼女らと議論を交わす中で自分のやりたいことが鮮明になり、強い意志を持ってキャリアの選択ができると考えています。以上、個人的な考えですが、今後進学される方、特に学部卒ストレートの方にとって参考になれば幸いです。

もし何か相談したいことがありましたら、お気軽にメールしてください。haruto.hiroki.29@gmail.com



### 編集後記

急なお願いにもかかわらず、寄稿を承諾してくださった皆様、大変感謝しております。今回のニューズレターより担当しております2019年卒の関根真杜と申します。サセックスの縦の繋がりをより活発化できたらと思い、活動しております。精一杯務めて参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。何かございましたら、こちらのメールアドレス(makoz.kitchen@gmail.com)までご連絡ください。